

遥かなる記憶

宮坂 新（諏訪市）

授けられた身体が
この両足で踏みつける
大地から伝わるのは
遠い記憶の断片

村が社会に変わり
土器が硝子になったとしても
生命の息吹が
風となり、華と散るとて

人は人で在ることを止めない
刻み込まれた証
何処かで、また
伝わっていく

悠久のそらが
いつかの季節が
遠くから聴こえるのは
生きた祖先の声

涙流していた

河や湖に流れて
再び巡った
魂が、逝きつく果て

懐かしい瞳を見てる
古き街の片隅
縄文は、まだ
続いている

ビーナスの影が
故郷の歌が
もう一度聴きたい
還るために

人は人で在ることを止めない
失くせないものだから
何処かで、また
伝わっていく